



法人・施設の説明、事業計画の報告の他、仲間の活動や暮らしの様子を写真を交えながら紹介し、施設見学を行いました。大地の昼食を一緒に食べながら、「その人らしい個性的な暮らしが送れていると感じた」「大地の取り組みが特別ではなく、みんなの標準になるとよいと思った」という感想をいただきました。

大地では自治会回覧板に「広報だいち」を入れ、地域の方に仲間の暮らしや活動の様子を知ってもらおう機会としていきます。

今回「回覧板で大地の広報を読むのを毎回楽しみにしています」というお話があり、日頃から施設の取り組みや仲間たちの様子を、地域の方に知ってもらおう場を作っていくことはとても大切なことだと感じました。

困ったことは「職員が少なく、困ってしまう時がある。そうなるのが悩み事が膨らんでしまう」という気持ちも伝えてくれました。

三羽さんは原稿を準備しての参加。ホームで暮らしやすかったことは「洗濯物とか自分でできることはやっています」

「洗剤物とか自分でできることはやっています」

困ったことは「職員が少なく、困ってしまう時がある。そうなるのが悩み事が膨らんでしまう」という気持ちも伝えてくれました。

「以前より川口太陽の家は知っていたが、見学は初めてで、どちらの施設もよく考えられているなと感じた。」と感想をいただきました。また、オレンヂホームの隣の方からは「挨拶してくれて、とても礼儀正しい人もいます。頑張ってください」とはげましていただきました。

はれ施設長 高橋 実

地域にはまだまだ交流を深めたい人がたくさんいます。よく行くスーパーやコンビニ、近隣の保育園や高校など、この会議をきっかけに地域のことを一緒に考え、良くしていく仲間を増やしていければと思います。

大地副施設長 中村 智恵

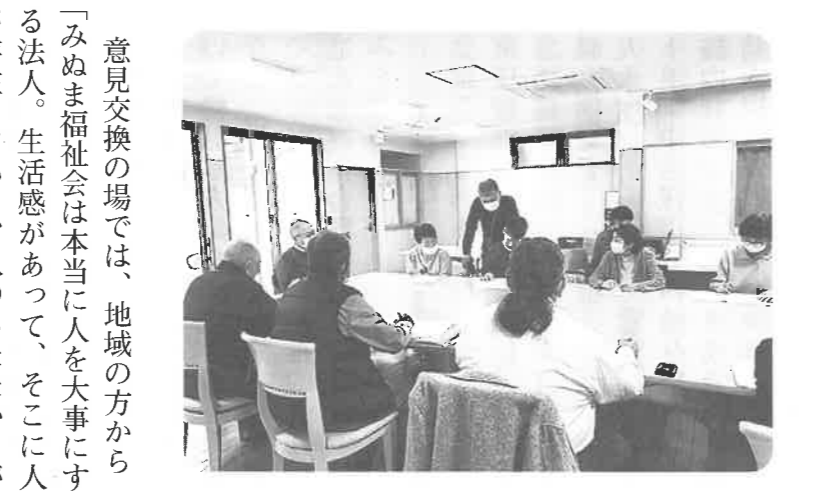
はれ、オレンヂホーム

3月17日、施設の見学、意見交換を行い仲間、家族、町会の方、地域の関係者、障害福祉課の方が参加されました。今回の地域連携推進会議のテーマは「地域の方にみぬま福祉会を知ってもらおうこと」でした。

会議には、はれの渡辺孝雄さんとオレンヂホームの三羽さんが参加しました。

渡辺さんはインタビュー形式。ごはんは？「おいしいよ」

仕事は？「ウエス頑張ってる。油絵描いてる。」とはれでの暮らしを話してくれました。



意見交換の場では、地域の方から「みぬま福祉会は本当に人を大事にする法人。生活感があって、そこに人が存在している、人のあたたかさがよく出ている」という意見がありました。

木曾呂第一町会の町会長さんより「以前より川口太陽の家は知っていたが、見学は初めてで、どちらの施設もよく考えられているなと感じた。」と感想をいただきました。また、オレンヂホームの隣の方からは「挨拶してくれて、とても礼儀正しい人もいます。頑張ってください」とはげましていただきました。

はれ施設長 高橋 実

「カントリード」「翼をください」などなど、素晴らしい歌声を「はれ」に響かせてくれました。「録音してお母さんに聴かせたかったです！」という斎藤裕一さんの素敵な感想。またお待ちしています。

オレンヂホーム

ゴールデンウィークは、久しぶりに家族と出かけたり職員とイベントに出かけたりしました。みんなの取り組みとしては、それぞれが好きなものを注文するテイクアウトをおこないました。のんびりとした連休でした。

おひさま通信

地域連携推進会議

各施設で開催

地域連携推進会議とは

ここ数年、障害福祉サービスを提供する事業者が増えてきており、支援の質の確保が重要な課題となっています。そのため障害者支援施設、グループホームにおいて、地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」を開催すること、会議の構成員が施設を見学する機会を設けることが令和8年に義務付けられました。

この会議は地域の方と施設が情報共有や意見交換を行い、仲間の暮らしや支援の様子を知ってもらうことで地域とのつながりを深めていくことを目的としています。

みぬま福祉会でもこの制度に基づきそれぞれの入所施設、グループホームで地域連携推進会議が開かれました。



3月18日に開催し、施設が大切に「暮らし」「働く」「余暇」の取り組みや、高齢化・医療的ケアの増加に伴う環境整備計画を報告しました。特に印象的だったと話されたのは、災害時に地域の障害者や住民の避難を受け入れる「防災拠点スペース」の活用構想です。施設が単なる居住の場にとどまらず、地域の防災という重要なセーフティネットの役割を担おうとしていることに関心が寄せられました。

また、職員だけでなく代表の仲間からも暮らしの感想や仕事の様子から報告してもらったことで、より太陽の里のことを知ってもらえたと思います。

意見交換では、家族会から「土日の報酬ゼロ問題」の解消に向けた行政への働きかけが要望されました。施設見学の後には、日頃の仲間たちの食事を食べてもらい、太陽の里を身近に感じてもらえたと感じています。

今回の会議を通して、制度的に義務化されたからではなく、この会議が仲間の暮らしを作るうえで大切な場になると強く感じました。

これまで地域の中で閉鎖的になりがちだった入所施設が、地域の防災拠点としての役割を発信できたり、現場が抱える切実な制度的課題を行政や地域へ直接訴えかけることができます。施設と地域が一方通行ではなく、互いに現状を共有し、みんなで作る暮らしの場の実現に向けた確かな一歩になると感じました。

太陽の里施設長 園部泰由

大地

3月12日、地域より新井第一自治会会長、蓮田南小学校の校長、特定非営利活動法人かもめの管理者、蓮田市福祉課の皆さまに参加いただき、大地からは家族会会長、仲間の自治会からは代表が出席しました。

4月は天気にも恵まれ、何回も公園へ遊びに行きました。子どもたちは、いろいろな種類の滑り台がある公園が大好きです。滑り台を何度も繰り返し遊ぶ子や、友だちや先生を誘い、一緒にスリルを味わっては「もう一回」と階段を上っています。

新年度になっても顔ぶれは変わらず一緒に子どもたちです。お友だち同士で楽しい思いを共有し、過ごしていけたらと思います。

白岡市障害者デイサービスセンター 新年度に入り、職員が新任で入ってきました。とても明るい方というところもあり、仲間たちは合間をみてどんどん近づいて、おしゃべりだけでなく、一緒に仕事をしたり、花壇を眺めてみたり、時には人生相談をしてみたりと、各々の距離感で関係を深めています。

太陽の里

3月18日に開催し、施設が大切に「暮らし」「働く」「余暇」の取り組みや、高齢化・医療的ケアの増加に伴う環境整備計画を報告しました。特に印象的だったと話されたのは、災害時に地域の障害者や住民の避難を受け入れる「防災拠点スペース」の活用構想です。施設が単なる居住の場にとどまらず、地域の防災という重要なセーフティネットの役割を担おうとしていることに関心が寄せられました。

また、職員だけでなく代表の仲間からも暮らしの感想や仕事の様子から報告してもらったことで、より太陽の里のことを知ってもらえたと思います。

意見交換では、家族会から「土日の報酬ゼロ問題」の解消に向けた行政への働きかけが要望されました。施設見学の後には、日頃の仲間たちの食事を食べてもらい、太陽の里を身近に感じてもらえたと感じています。

今回の会議を通して、制度的に義務化されたからではなく、この会議が仲間の暮らしを作るうえで大切な場になると強く感じました。

これまで地域の中で閉鎖的になりがちだった入所施設が、地域の防災拠点としての役割を発信できたり、現場が抱える切実な制度的課題を行政や地域へ直接訴えかけることができます。施設と地域が一方通行ではなく、互いに現状を共有し、みんなで作る暮らしの場の実現に向けた確かな一歩になると感じました。

太陽の里施設長 園部泰由

響き

大宮太陽の家

4月に新しい仲間を迎え22日に入所式を行いました。企画・準備などは、実行委員の仲間と協力しながら取り組みました。

入所式当日は皆からお祝いムードで歓迎を受け、新入所者からは誓いの言葉で応えました。大宮太陽特製の紅白パウンドケーキを記念に贈り、全員で記念写真を撮りました。

サンライズ

仲間自治会からゴールデンウィーク企画の提案がありました。

毎年、職員体制が課題ですが、仲間たちから希望がある事を嬉しく感じています。仲間たちの要望をどのように工夫すれば実現できるのか、計画を仲間たちと共に検討しています。

シャイン

4月は天気にも恵まれ、何回も公園へ遊びに行きました。子どもたちは、いろいろな種類の滑り台がある公園が大好きです。滑り台を何度も繰り返し遊ぶ子や、友だちや先生を誘い、一緒にスリルを味わっては「もう一回」と階段を上っています。

新年度になっても顔ぶれは変わらず一緒に子どもたちです。お友だち同士で楽しい思いを共有し、過ごしていけたらと思います。